

PRESS RELEASE



Photo by The Mainichi Newspapers Co., Ltd.

TAKADA KENZO News

NEWS

- ①世界的ファッション・デザイナー高田賢三の
没後初の大規模回顧展、姫路市立美術館で開催！
- ②本展覧会にあたり、パリ市長のアンヌ・イダルゴ氏より
メッセージをいただきました。
- ③パリに高田賢三を顕彰する銘板が設置されました！

NEWS

① 世界的ファッション・デザイナー高田賢三の没後初の大規模回顧展、姫路市立美術館で開催！



大阪・関西万博記念事業

高田賢三展

パリに燃ゆ、永遠の革命児

会 期 | 2025 年 4 月 12 日[土] - 7 月 21 日[月・祝]

会 場 | 姫路市立美術館

主 催 | 姫路市立美術館、毎日新聞社、

協 賛 | DNP 大日本印刷

特別協賛 | ヤマサ蒲鉾

後 援 | 朝日新聞姫路支局、NHK 神戸放送局、
公益財団法人 2025 年日本国際博覧会協会、神戸新聞、
在日フランス大使館／アンスティチュ・フランセ、
産経新聞社神戸総局、サンテレビジョン、播磨時報社、
播磨リビング新聞、姫路ケーブルテレビ、
姫路市商店街連合会、姫路シティ FM21、ラジオ関西
特別協力 | 文化学園ファッションリソースセンター、
KENZO PARIS、パリ装飾芸術美術館、
隈研吾建築都市設計事務所
協 力 | NDK 日本デザイン倶楽部、米谷紙管製造、日本航空、
白城会、姫路日仏協会、姫路市立美術館友の会、
兵庫県パリ事務所、服飾美学会

開催趣旨

高田賢三（1939-2020）は、日本人のファッション・デザイナーとしていち早くパリに進出し、斬新なアイデアで常識を打ち破るスタイルを次々と生み出しました。単身で渡仏後、1970 年にパリで自らのブランドを立ち上げた高田は、木綿の新しい可能性を打ち出したことで「木綿の詩人」と称され、早くから注目を集めます。その後も、身体を衣服から解放させることを意識し、直線裁ちの着物袖やダーツをなくしたゆとりある服を生み出したり、独特の色使いや柄の組み合わせを用い「色彩の魔術師」と称されたりするなど、日本人としての感性を駆使した作品を数多く発表しました。それらは、国境や文化、性別を自由に超え、これまでの西欧中心の伝統文化にとらわれない新しい衣服を示唆することとなり、今もなお世界中で愛されています。

2020 年に惜しまれつつ逝去した高田賢三の没後初の大規模個展となる本展では、高田のファッションの変遷を衣装展示でたどるとともに、幼少期から描いていた絵画やアイデアの源泉となった資料、衣装のデザイン画などを紹介し、多角的な視点で人物像を浮かび上がらせ、日本人デザイナーのパイオニアとして世界で活躍した高田賢三の生涯にわたる創作活動を回顧します。

高田賢三

1939 年、兵庫県姫路市生まれ。文化服装学院に入学し、1960 年に若手デザイナーの登竜門「装苑賞」（第 8 回）を受賞。渡仏して 5 年後の 1970 年、パリに自らのブランドを立ち上げる。その自由で華やかなデザインで瞬く間に人気が広がり、世界を代表するトップデザイナーとして活躍した。1999 年に「KENZO」ブランドから退いた後も、企業とのコラボレーションやオペラ衣装の制作、新たなブランドの立ち上げなど、精力的に活動した。2020 年、81 歳で逝去。

- 1984 年 フランス芸術文化勲章(シュヴァリエ位)
- 1985 年 第 3 回毎日ファッション大賞
- 1998 年 国家功労賞芸術文化勲章(コマンドゥール位)
- 1999 年 紫綬褒章
- 2016 年 レジオンドヌール勲章(シュヴァリエ位) ほか受賞多数

本展の見どころ

1_タイムラインでたどる高田賢三の人生

姫路市出身の高田賢三は 1958 年に文化服装学院に入学。戦後の洋裁学校ブームのなか、小池千枝氏に師事しました。1960 年には若手デザイナーの登竜門である「装苑賞」(第8回)を受賞し、ファッション・デザイナーとして第一歩を踏み出します。渡仏後、1970 年に自らのブランドを立ち上げてから、1999 年に KENZO ブランドを去るまでその人気は衰えることなく第一線を走り続けました。ブランドを離れた後、2000 年代に入ってから、2004 年のアテネオリンピック日本選手団公式服装のデザインや、2019 年には演出家宮本亜門氏による『蝶々夫人』の衣装を手掛けるなど、クリエイターとしての活動は続きました。

幼少期、東京の文化服装学院で過ごした学生時代、パリに渡ってからの活躍、そして晩年の活動まで幅広く紹介し、高田の人柄を語るトピックを織り交ぜながら、彼の魅力あふれる人生を紹介します。



「宝石の女」の衣装
(宝塚歌劇団『バルファン・ド・パリ』)より
ドレス、ヘッドピース、アームカバー、タイツ、靴
The Costume for "The Jewel Woman "
from "PARFAM DE PARIS " by Takarazuka Revue
1992
姫路市立美術館
Himeji City Museum of Art
©福永一夫

2_国内外のコレクションから厳選した オールド・ケンゾー

前半では、装苑賞を受賞した記念すべき作品をはじめ、「日本のきれ」を使った初期の作品、「ニット」「ツイード」「バルーン」といった素材や技法、「アンチ・クチュール」「ペザント・ルック」「ミリタリー・ルック」など、1970 年代に高田賢三が発表したテーマに着目して紹介します。

後半では、「日本」「中国」「ルーマニア」「ロシア」「アフリカ」など、高田賢三の代名詞ともいわれる世界各地の民族衣装に着想を得た 1970-80 年代のフォークロア作品を一堂に展示します。多様性、包摂性を持ち合わせていた高田賢三の世界を堪能できる空間となるでしょう。

さらに、集大成となった KENZO ブランドでの最後のショー「30ans(トランタン)」(1999 年)の映像フィルムをデジタル化し、ダイジェストで紹介します。



ブルオーバー
pullover
1970-1971AW
KENZO PARIS
©Kenzo Heritage, Photo by Elie Bianco

3_約 20 年間集めたりボンで作られたウェディングドレス

1982AW のショーに登場したマリエ(ウェディングドレス)は、高田賢三が約 20 年間にわたって集めたりボンを使って制作した大作です。花の刺繍が施された色とりどりの美しいリボンが使われています。このドレスは 1999 年に行われたショー「30ans(トランタン)」で、日本を代表するモデル、山口小夜子が着用しました。本展ではこのドレスとともに、制作の様子も写真資料で紹介します。



ドレス
dress
1982-1983AW
©Kazuko Masui

展覧会構成

プロローグ 高田賢三のクロノロジー

1939 年兵庫県姫路市に生まれた高田賢三は、文化服装学院で服飾デザインを学び、1964 年に渡仏しました。オートクチュールからプレタポルテに移行しようとしていた当時のパリで、日本人としての感性を駆使したコレクションを 1970 年に発表。瞬く間に人気を博し、パリのプレタポルテを牽引するファッション・デザイナーへと成長していきます。1999 年に KENZO のデザイナーを退いた後も、2004 年開催のアテネオリンピック日本選手団公式服装をデザインし、2016 年には仏芸術文化勲章受賞。2019 年には演出家宮本亜門氏によるオペラ『蝶々夫人』の衣裳を手掛けるなど、その創作活動は衰えることはありませんでした。2020 年には HOME & LIFESTYLE の新ブランド「K 三」を立ち上げ、精力的に活動していましたが、同年新型コロナウイルスに罹患し、その生涯を閉じます。ここでは、高田賢三の未公開のご遺愛品とともに、一部タイムライン形式で紹介します。

セクション 1 高田賢三のテーマと 1970 年代

1970 年パリにブティックを開き、ブランド「JUNGLE JAP」として初コレクションを発表した高田賢三は、「木綿の詩人」と称賛され、1973 年には「KENZO」の名で、パリ・プレタポルテデビューを果たします。「衣服からの身体解放」をテーマに、「アンチ・クチュール」や「ピク・シャツ」など、直線裁ちの着物袖やダーツをなくしたゆとりある服などを発表し、体の曲線を主張する服が主流であった当時のパリの人々を驚かせました。着物にインスピレーションを得て、平面裁断と立体裁断を融合した彼の作品は、日本の衣文化だけにとどまらず、国境や文化、性別を自由に超え、着物や洋服の既成概念にとらわれない新しい衣服を示唆するものでもありました。

セクション 2 高田賢三のフォークロアと 1980 年代

「80 年代の服づくりは僕が 70 年代にやったことをさらに洗練させ、もっと実用的にしようと心がけている」と高田は語っています。1970 年代の創成期を経て、1980 年代になると、高田は質やデザインに配慮しながらも、常に着る人に重きを置いて創作活動を行うようになりました。

ここでは、高田賢三のファッションの真髄とも言えるフォークロア調の作品を 1980 年代の作品を中心に俯瞰します。また、ベル・エポックの時代の人形をイメージしてフリルをふんだんに使用した「ロマンティック・バロック」、ファッション界で黒色が流行する中で発表された、カラフルな配色と重ね着が印象的な「ニューカラー」など、高田の挑んだ新しいスタイルも含めて 1980 年代を振り返ります。

セクション 3 キャスティバル'94— 円熟の 1990 年代

「キャスティバル'94」は、国宝・姫路城が日本初の世界文化遺産に指定されたことを記念し、姫路市が 1 年間にわたって開催した一連のイベントの総称であり、高田賢三の「KENZO ショー」は 1994 年 5 月 14 日、15 日、各日 3 回が姫路市厚生会館で開催されました。1994-1995AW のラインナップを中心としたコレクションのほか、チャイコフスキーのバレエ音楽「くるみ割り人形」の物語にのせて、中国風やインド風の衣装など、フォークロアが基調の作品が披露。作品の素材には、サテン、ジャカード、ビロードなどが使われ、麻地に贅沢な刺繍がほどこされたスカートや、華やかでありながらも上品な色使いのドレスなど、従来の高田のテイストに緻密さや高品質感が加えられ、成熟した大人の雰囲気を見せています。

エピローグ 受け継がれる高田賢三の DNA

高田賢三がブランドから羽ばたいた後も、「KENZO」ブランドはパリを拠点に作品を発表し続けています。高田賢三の確立した、国境や性別を超えた「自由」「喜び」の精神を受け継ぎ、アントニオ・マラス、ウンベルト・リオン&キャロル・リム、そして現在では日本人デザイナーの NIGO らが、コレクションを発表し続けています。何より自由を愛し、夢を追い続けた彼の精神は永遠に輝き、人々の心を照らし続けています。ここでは NOGO の作品を 1 点紹介します。

姫路会場オリジナルポイント

- ・キャスティバル'94 衣装作品を含め 合計 100 件を展示！
KENZO ブランド 70 年代から 90 年代を一堂に会するのは姫路会場のみ！
- ・メンズコレクションも出品
- ・受け継がれる高田賢三の DNA 後継デザイナー NIGO の作品も展示！
- ・バステューの旧高田賢三邸へのクローズアップ展示！リノベーションを手がけた世界的建築家・隈研吾氏とのコラボレーションを実現！
- ・生まれ故郷姫路での調査記録の反映

作品解説



ブラウス、スカート
blouse, skirt
1994
姫路市立美術館
Himeji City Museum of Art
©福永一夫

「花柄は毎シーズンたくさん使っているが花の形、配色はシーズンによっても変化する。平面的になったり、壁紙風になったり、アフリカ風になったり、日本のふとん柄になったり、カシミア風だったり……」と高田賢三は語っています。

1994SS のコレクションは「ジプシー」がテーマのひとつとして発表され、美しい花の刺繍が特徴の本作は、スペインのフラメンコで伝統的に用いられるショール「マントン・デ・マニラ」がインスピレーションの源となったものです。



ドレス
dress
1982-1983AW
©高橋健治

ウェディングドレスはそのシーズンの集大成とされ、趣向を凝らした演出でショーのフィナーレを飾ります。このドレスは「花」をテーマに、ピンクの薄い生地には 20 種類以上の花柄のリボンを縫い合わせて作られています。「パリに着いた当初からリボンを集めていました。色とりどり、様々な素材、古いもの、新しいもの、刺繍入り、シンプルな形…」と高田賢三は語っています。約 20 年をかけて集めたリボンが、全長 200 メートル使われたともいわれ、手仕事の贅が尽くされた、高田賢三の代表作のひとつです。



プルオーバー、スカート
pullover, skirt
1979-1980AW
KENZO PARIS
©Kenzo Heritage, Photo by Elie Bianco

1970 年代最後となる 1979-1980AW ではこれまでとはまた趣向の異なるコレクションが発表されました。フランスやベルギーで親しまれている漫画(バンドデシネ)をテーマにした「BD ルック」です。漫画の中のキャラクターのようなイメージとポップでカラフルな配色が特徴的です。



ブラウス、パンツ、カーディガン
blouse, pants, cardigan
1986SS
文化学園ファッションリソースセンター
Bunka Gakuen Fashion Resource Center
提供：文化学園ファッションリソースセンター

1980 年代、パリでは身体のラインを強調したボディコンシャスなデザインが大流行した一方で、川久保玲や山本耀司など次世代の日本人デザイナーがパリコレに参入し、「黒の衝撃」と呼ばれる革新的なコレクションが次々と発表されました。しかし、高田賢三はその流れからは距離を置き、自らの表現を熟成させることに専念しました。本作はその好例と言えるでしょう。柄と柄、色と色が激しくぶつかり合う、エネルギッシュな組み合わせで、高田賢三らしい作品です。



コンビネゾン
combination
1979-1980AW
KENZO PARIS
©Kenzo Heritage, Photo by Elie
Bianco

1979-1980 A Wでは、毛皮を使ったコレクションを発表しました。毛皮やフェイクファーをパッチワークした衣装は、シャルル・ペローの童話『ロバの皮』の世界をイメージしています。



プルオーバー
pullover
1970-1971AW
KENZO PARIS
©Kenzo Heritage, Photo by Elie
Bianco

KENZO といえばニットといわれるほど、高田賢三のニットは人気がありました。カラフルな色づかいや大胆な柄、様々なテクニクを駆使した編地で、毎回異なるイメージのニットを発表しました。唇があしらわれたニットは 1970-1971AW の「ロンドン・ポップ」と名付けられたシリーズのもので、最初期の作品です。

② 本展覧会にあたり、兵庫県パリ事務所のご協力で、パリ市長のアンヌ・イダルゴ氏よりメッセージをいただきました。

アンヌ・イダルゴ パリ市長からのメッセージ

Message d'Anne Hidalgo, Maire de Paris.

Exposition dédiée au créateur japonais Kenzo Takada, qui sera présentée en juillet à Tokyo puis à Himeiji en 2025.

Créateur et décorateur japonais talentueux, Kenzo Takada a laissé une marque indélébile sur l'industrie de la mode. Je suis heureuse de lui rendre hommage et d'honorer l'héritage d'un artiste amoureux de Paris, ville qu'il a choisie et dans laquelle il a vécu pendant plus de 50 ans.

Après son enfance à Himeiji et ses études à L'université municipale de langues étrangères de Kobe puis au Bunka Fashion College de Tokyo, à 24 ans à peine, c'est à Paris que ce jeune artiste fait le choix audacieux de déménager. Séduit par la capitale française, il a choisi de s'y établir et d'y cultiver sa vision unique de la mode.

Après l'ouverture, en 1970, de sa première boutique au cœur de Paris, dans la célèbre galerie Vivienne, ses œuvres retiennent l'attention grâce à leur originalité, leur poésie et leur inspiration variée. Si l'influence de son pays natal reste présente dans son œuvre, celle-ci rend aussi hommage à la diversité et à la richesse culturelle parisienne.

Les défilés de Kenzo ont essaimé dans tous les sites emblématiques parisiens et au-delà : le Palace, où se déroulèrent tant de belles fêtes, tout comme le Château de Maisons-Laffitte, les Beaux-Arts ou le Cirque d'hiver, n'en sont que des exemples !

Mais ses contributions ont plus largement laissé leur empreinte sur la culture à Paris par leurs innovations et leur esprit créatif. Paris est fière d'avoir été le creuset du succès aux influences multiples de « l'un des plus parisiens des créateurs japonais ». Les Parisiennes et les Parisiens garderont une affection éternelle pour Kenzo Takada !



【アンヌ・イダルゴ市長メッセージ 日本語訳】

日本のデザイナー高田賢三の展覧会が7月に東京で、そして2025年には姫路で開催されます。

才能あふれる日本人クリエイターで、デザイナーでもある高田賢三は、モード界に忘れがたい足跡を遺しました。パリは彼が50年以上住んだ街であり、彼が生きることを選んだ街です。私は、この街を愛したアーティストの業績を称え、敬意を表する機会を得たことをうれしく思います。

姫路で育ち、神戸市外国語大学、東京の文化服飾学院で学んだ後、24歳の若き芸術家はパリに移住するという大胆な決断をします。フランスの首都、パリに魅了された彼は、この地に居を構え、モードにおける独自のヴィジョンを育むことを決意しました。

1970年、パリの中心部にある有名なギャラリー・ヴィヴィエヌに最初のブティックをオープンし、彼の作品は独創性、詩情、多彩なインスピレーションによって注目を集めました。それは祖国日本の影響を残しながら、パリの文化的多様性と豊かさへの敬意が表されたものでした。

高田賢三のショーは、パリをはじめとするあらゆる象徴的な場所で開催されてきました。数々の素晴らしいパーティーが開かれた有名なナイトクラブ、ル・パラス、メゾン＝ラフィット城、パリ国立高等美術学校、サーカス場のシルク・ディヴェール、これらはほんの一例に過ぎません。

しかし、彼の貢献は、その革新性と創造的な精神によって、パリの文化により多大な影響を与えたことです。パリは、「最もパリらしい日本人デザイナーのひとり」である彼の大きな影響力と成功を生み出し、これを享受した町になり得たことを誇りに思います。パリジェンヌ、パリジャンの高田賢三への愛は尽きることはないでしょう！

アンヌ・イダルゴ

③ パリに高田賢三を顕彰する銘板が設置されました！

アンヌ・イダルゴ、クリエイター高田賢三へのオマージュの銘板を披露

2024年1月16日（火）16時45分ーヴィヴィエヌ通り6番地。

天才的なファッション・デザイナーであり、その名を冠したメゾン「KENZO」の創設者、高田賢三氏に、パリ市から銘板が授与される。アンヌ・イダルゴ・パリ市長とLVMHファッション・グループによって除幕式が行われる。

クリエイターでありデザイナーでもある高田賢三は、パリの、そして世界のファッションのアイコンである。20世紀後半にフランスに渡った日本人ファッション・デザイナーでもある彼は、数々の革新的な作品を通して、文化とジャンルを融合させる手腕で知られている。彼の国際的な名声は、1970年に設立され、1993年以降LVMHの一部となった、ケンゾーブランドのメゾンを立ち上げたことで確立された。2020年、コロナウィルスが猛威を奮う中で亡くなった高田賢三は、1965年に母国日本からフランスに移り住んで以来、パリを心から愛していた。1970年に最初のブティックをオープンし、パリで最初のショーを開催したギャルリー・ヴィヴィエヌにて、2024年1月16日のパリ・ファッション・ウィーク開幕日に彼の栄誉を称える銘板を設置する。（パリのプレスリリースより抜粋）



パリにある高田賢三の銘板
写真提供：兵庫県パリ事務所

銘板とその日本語訳

KENZO TAKADA 1939-2020 COUTURIER ET STYLISTE JAPONAIS EN 1970 C'EST DANS LA GALERIE VIVIENNE QU'IL A OUVERT SA PREMIERE BOUTIQUE ET PRESENTE SON PREMIER DEFILÉ À PARIS. 夢 (RÊVE)	高田 賢三 1939-2020 日本人ファッション・デザイナー、クチュリエ 1970年 ギャルリー・ヴィヴィエヌにて 最初のブティックを開き ファッションショーを行う パリにおいて 夢
--	---

除幕式にはパリ市長アンヌ・イダルゴ氏（代理：パリ中央区長）、パリ中央区長アリエル・ヴェイル氏、LVMH 代表取締役社長シドニー・トレダノ氏、発起人のルース・オバディア氏らが出席し、日本からは高田賢三の実弟で遺族代表の山下紀年氏の代理として兵庫県パリ事務所長東信隆氏が参列しました。和太鼓のパフォーマンスとともに東西の融合を目指した高田賢三の功績を讃えるセレモニーが執り行われ、高田賢三の名前が文字通りパリの歴史に刻まれました。

■本展覧会に関するお問い合わせ

姫路市立美術館 広報事務局（TM オフィス内）
担当：馬場・永井・西坂
MOBILE：090-6065-0063（馬場）
090-5667-3041（永井）
TEL：050-1807-2919
FAX：06-6231-4440
E-mail：himeji@tm-office.co.jp